

2020年1月31日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田 正雄

## TSR - Press Release

### 2019年度の電子小黒板アプリ市場を発表

- 2020年代に向けての電子小黒板アプリの応用性と更なる市場の拡大 -

株式会社テクノ・システム・リサーチは、電子小黒板アプリの市場規模、市場動向を発表致しました。

#### 電子小黒板とは

建築や土木工事は工事の進捗状況や状況確認、実測値などを確認するために小黒板を用いて写真撮影をし、資料として保管または、役所への届け出を行っている。

この小黒板の代替として、スマートフォンやタブレットのカメラと小黒板の機能を実装したアプリケーション、またそれらの写真を管理する管理ツールが電子小黒板である。

国土交通省が 2013 年度より実証実験を開始し、適用性を検証すると共に計測機器やソフトウェアの開発・改善を行ってきた。そして 2017 年 1 月に「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」が作成され、同年 2 月より同省の直轄工事において入札手続きを行う土木工事を対象に電子化された電子小黒板の活用が開始された。これによって、都道府県や市町村での利用が可能になり、大きな注目を集めることになった。

公共工事に関するデジタル画像において、信憑性確認(改ざん検知機能)が搭載されていることが必須条件となっている。各メーカー製品は、当該機能を日本建設情報総合センター(JACIC)に認可されることで、実際に利用することが可能となる。

#### 電子小黒板アプリ 市場動向

電子小黒板アプリの市場規模は 2018 年度の 342,500 本から、2019 年度(暫定)では 496,000 本と対前年比 44.8%の増加の見込みとなっている。この動きは 2020 年度も続いていくとみられる。

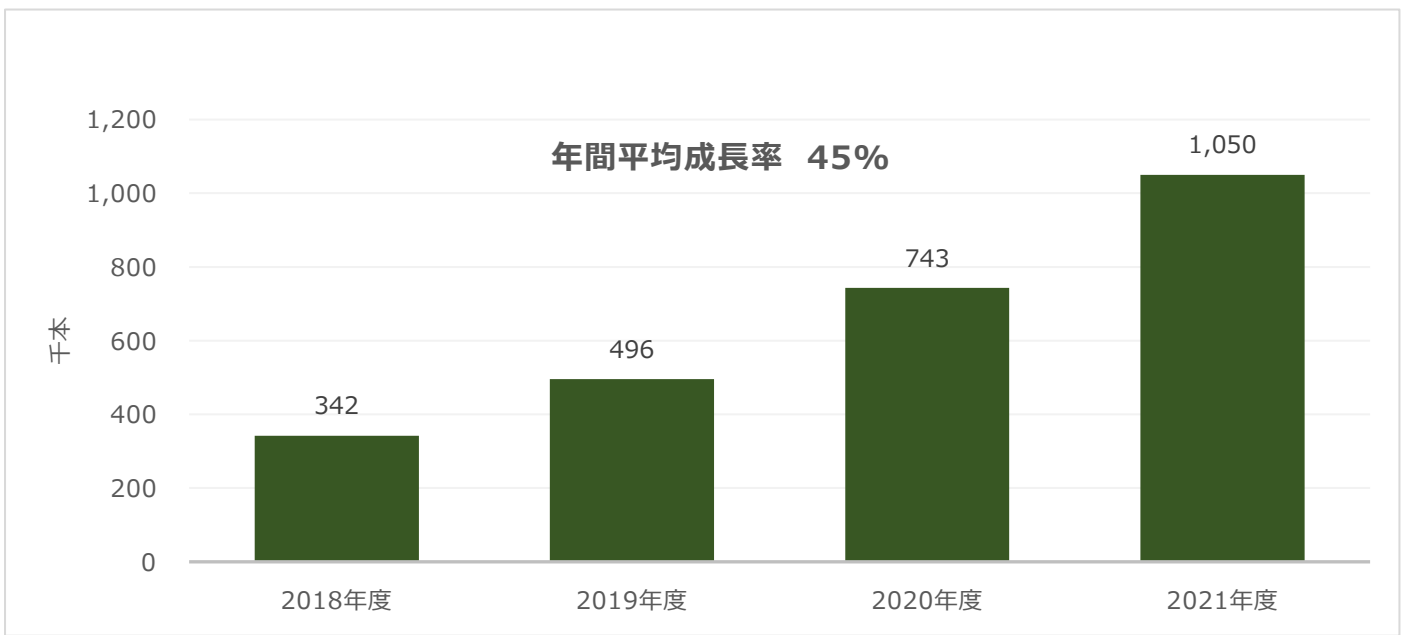
2017 年 4 月に国土交通省から電子小黒板の利用が認められてから 2020 年で 3 年が経過し、普及度としては、全国の都道府県で電子小黒板の導入はかなり進んだ印象がある。特に、スーパーゼネコン、ゼネコンレベルでの導入はほぼ入り切った状況にあると見られ、サブコン、中小の建設業者、地場の工務店等に裾野が広がり始めている状況となっている。

図面管理や施工管理、検査管理など電子小黒板以外の機能も一つのアプリに統合してシェアを伸ばしているメーカーも出てきており、電子小黒板が利用される範囲が広がっている。

今後、施工などの現場管理に関する情報を付加情報として写真に加えることが可能になっていくと、その利便性から、土木・建設現場以外の不動産、ビル管理、都市開発、鉄道関連、物流管理、資産管理といった分野においても、電子小黒板が利用され始めることが見込まれる。

そしてさらに、将来的にAIによる画像分析が加わることで、AIが写真から現場に関する情報を自動で生成することが可能となる。これが実現すると、様々な現場作業において更なる効率化を図れるようになり、電子小黒板アプリの市場規模は今後大きく拡大していくことになる。

### 電子小黒板アプリ 市場トレンド (本数) 2018-2021



※(株)テクノ・システム・リサーチ 推定値

### 電子小黒板アプリ メーカー動向

2011年に提供が開始され、国土交通省による電子納品の利用認可から約3年が経過した電子小黒板アプリは、様々な機能が追加されて充実してきている。各メーカー共、既存の使用用途だけではなく、アプリ機能の応用からのアプリの可能性の追求、そして更なる利用シーンの拡大を模索している。

各社のビジネスモデルとしては、2 つに分かれる。

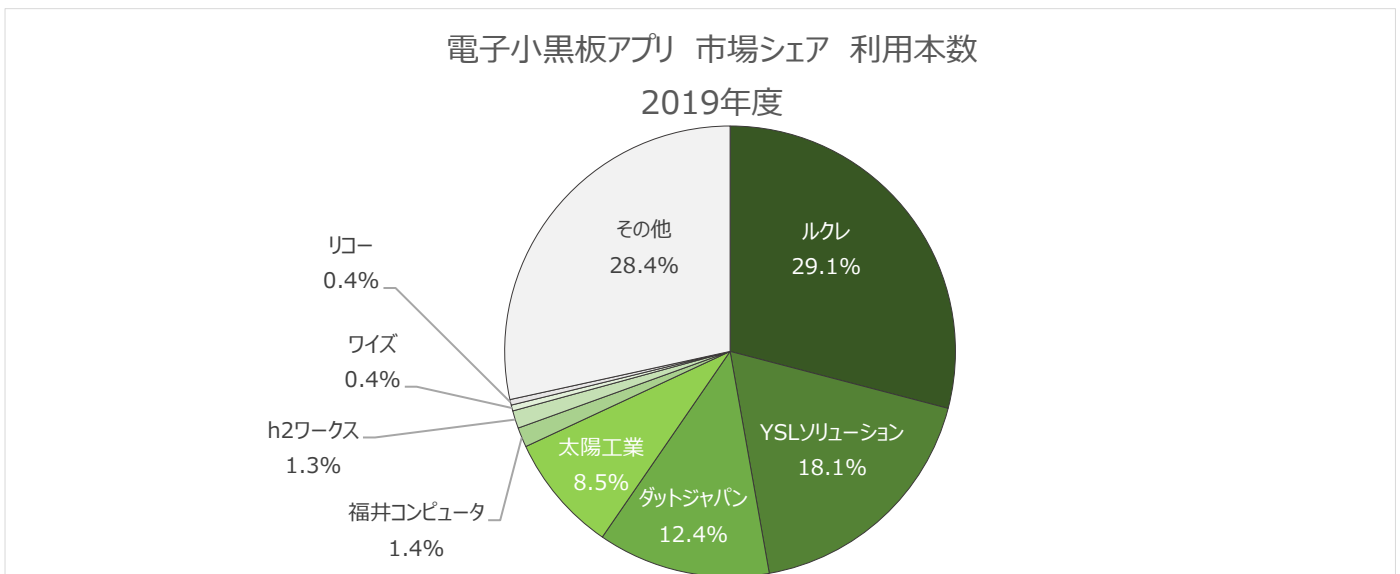
- ① 電子小黑板機能を含むアプリの有料提供
- ② 電子小黑板アプリは無料で提供し、建設/工所用写真管理ソフトや管理ソフト等を販売

電子小黑板アプリの利用本数におけるメーカーシェアを見ると、2019 年度見込みでは「蔵衛門電子小黑板」シリーズを展開するルクレが 2018 年度に続きトップシェアとなった。同社は電子小黑板に特化した専用タブレットの「蔵衛門 Pad」シリーズと iOS アプリの「蔵衛門工事黑板」を提供しており、大型のコーポレート契約や販路の拡大などにより利用本数を伸ばしている。2019 年より、現場のニーズを受け新型の「蔵衛門 Pad」3 種を発売したほか、写真管理ソフトの「蔵衛門御用達」シリーズも一新し、さらなる業務効率につながる連携強化を図っている。

YSL ソリューションは、施工管理の統合アプリである「CheX」を展開し、電子小黑板も含めた施工に関する図面や書類をスピーディーに一元管理することができるアプリを提供し、国内外でシェアを伸ばしている。

ダットジャパンは、「現場 DE カメラ」シリーズとして機能・用途別に 3 種類のアプリを提供し、それらのアプリと最適に連携する施工現場用管理ソフトウェアである「現場編集長 CALSMATER」を展開している。

「ミライ工事 2」を展開する太陽工業は、作業現場における操作性とアプリの動作性、さらにクラウド上での台帳作成に力を入れている。



※(株)テクノ・システム・リサーチ 推定値

※電子小黑板アプリを提供、または電子小黑板機能を有するアプリを提供している主なメーカー（五十音順）；

(株)h2 ワークス： 証助 シリーズ（証助・BPO）

(株)オクト： &ANDPAD

(株)建設システム： SiteBox 出来形・品質・写真

太陽工業(株)： ミライ工事 2

ダットジャパン(株)： 現場 DE カメラ シリーズ（現場 DE カメラ・PRO・土木版）

(株)フォトラクション： Photoruction

福井コンピュータ(株)： どこでも写真管理 Plus

(株)MetaMoji: eYACHO

(株)リコー： SnapChamber 電子黒板アプリ

(株)ルクレ： 蔵衛門電子小黑板 シリーズ（蔵衛門工事黒板・蔵衛門 Pad）

(株)レゴリス： SPIDERPLUS

(株)YSL ソリューション： CheX

(株)ワイズ： 電子小黑板 Photomanager

など

---

#### 【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第1グループ 上野 晋平 ([ueno@t-s-r.co.jp](mailto:ueno@t-s-r.co.jp))

Tel: 03-3851-5651

(株)テクノ・システム・リサーチ発行物の内容を引用する際は、(株)テクノ・システム・リサーチによる承諾が必要です。

引用をご希望の際は、(株)テクノ・システム・リサーチの担当者までお問い合わせください。